

抗酸性菌培養ろ液の各種細菌の 発育に及ぼす影響に関する研究

第1編 各種抗酸菌培養ろ液の細菌発育に及ぼす影響について

金沢大学結核研究所細菌免疫部（主任：柿下正道教授）

宮 元 秀 雄

(受付：昭和34年3月20日)

緒 言

先に教室の女川²⁹はヒト型結核菌 H₂株に由来する旧ツベルクリンが結核菌の発育を著明に増強することを明らかにするとともに、結核菌菌体蛋白もまた結核菌の発育を促進せしめることを報告した。そこで今回私はこの問題を更にふえんして結核菌以外の細菌の発育に及ぼすツベ

ルクリンの影響について検討を試みると同時にヒト型結核菌を含めて各種抗酸菌の培養ろ液についてその影響力の間に相違があるかいなかもあわせて追究した。以下その成績の概要を報告する。

第 I 実験

抗酸菌培養ろ液の腸内細菌の発育に及ぼす影響

実験材料ならびに実験方法

1) 実験材料

i) 培養ろ液

ソートン培地にヒト型結核菌 H₂株、同青山B株およびBOK(当研究所において分離した非病原性抗酸菌)は各10週、トリ型結核菌竹尾株、チモーテ菌は5週間、37°Cに培養した後100°C、1時間加熱殺菌し、それぞれSeitzろ過器にてろ過後 $\frac{1}{10}$ に濃縮したものをおろ液として使用に供した。なおソートン培地を $\frac{1}{10}$ に濃縮したものを対照として使用した。

ii) 供試菌

大腸菌	(伝研株)
腸チフス菌	(No. 58株)
パラチフスA菌	(1015)
パラチフスB菌	(8006)
赤痢菌	(志賀株)

同 (駒込BII株)

同 (大野株)

同 (居石株)

同 (大原株)

(以上国立金沢病院保存株)

iii) 使用培地

ブイヨンならびにペプトン水にろ液を 10^{-1} , 10^{-2} , 10^{-3} , 10^{-4} , 10^{-5} および $\frac{1}{10}$ 濃縮ソートンを 10^{-1} の濃度になるように加えpHを7.0に修正し、中試験管に7mlあて分注し48時間、37°Cにて放置(無菌試験)後使用に供した。

2) 実験方法

供試菌をペプトン水培地に24時間培養を2回繰り返し、得られた培養菌液の一滴を各培養ろ液加培地ならびに濃縮ソートン加培地に接種し、直ちに37°Cで培

養し, 3時間, 6時間および15時間ごとにそのおのにおのにつき生菌数, 混濁度を検した。

i) 生菌数の測定

上に示した各時間ごとの培養について, その0.05ml ずつを滅菌生理食塩水 2ml, 5ml, 10ml のおのののに混入し, その一白金耳を普通寒天培地に混和

培養し24時間後発生集落数を算定した。

ii) 混濁度の測定

生菌数測定後の残液を 100°C, 30分間加熱殺菌し光電比色計 (Elma 製) により Filter 660μ を用い各培養前の培地をブランクとした透過率(%)をもつて表わした。

実験成績

供試菌の培養ろ液あるいは濃縮ソートン加培地での発育は, 3時間目および6時間目では無添加培地(対照)での発育に比し著明な差が認められなかつたが, 15時間目では第1表にみられるごとく, 各培養ろ液あるいは濃縮ソートン添加培地での発育はいずれも増強し, その発育度は培養ろ液添加量と平行した。第1, 2図は15時間培養後において各菌の対照培地における発育度(生菌数)を100%としたときの各培養ろ液 10^{-1} 添加培地での発育度を図示したものであつて, これによつてみると各培養ろ液添加培

地ではいずれも対照に比し著明な発育増強が認められるが, 濃縮ソートン添加の場合と比較すれば必ずしも全部の場合に発育が増強されているとは限らず, 一部には濃縮ソートン加培地における場合と同程度の発育増強しか認められないものもあつた。しかし菌の発育を増強せしめる点で培養ろ液の種類と供試菌株との間に一定の関係は認められなかつた。また一方基礎培地としてブイヨンを用いた場合とペプトン水を用いた場合とでは多少異なつた成績が得られた。

第 II 実験

抗酸菌培養ろ液の球菌の発育に及ぼす影響

実験材料ならびに実験方法

1) 実験材料

i) 培養ろ液

第I実験に準じた。ただしブドー球菌を除く他の球菌についてはヒト型結核菌青山B株の培養ろ液のみを用いた。

ii) 供試菌

ブドー球菌 (寺島株)

(以上国立金沢病院保存株)

肺炎双球菌 (I型)

同 (II型)

同 (III型)

溶血性連鎖状球菌

(以上金沢大学医学部微生物学教室保存株)

iii) 使用培地

ブイヨンを使用し, 第I実験におけると同様に

培養ろ液を添加, ブドー球菌に使用する培地は pH 7.0, 肺炎双球菌, 溶血性連鎖状球菌に使用する培地は pH 7.4 とした。

2) 実験方法

ブドー球菌は第I実験に準じた。

肺炎双球菌および溶血性連鎖状球菌は10%血清加ブイヨンでの24時間培養を2回繰り返したものを使用に供し, かつ3時間培養, 6時間培養を略し普通ブイヨンによる15時間培養について観察した。

i) 生菌数の測定

肺炎双球菌および溶血性連鎖状球菌には 10% ウサギ血液寒天を使用せる外, 第I実験に準じて行つた。

ii) 混濁度の測定

第I実験に準じ, 殺菌せずに測定した。

実験成績

ブドー球菌の各培養ろ液添加培地での発育は対照に比し著明に促進し、かつ濃縮ゾートン培地の発育と比較してもその増強は著明であり、また培養ろ液の種類による発育促進に差異を認めず、 10^{-1} 添加においては対照に比し生菌数は5.5～7倍となつた。(第2表、第3図参照)

肺炎双球菌に対しても青山B株培養ろ液は著

明な発育促進作用を示し、 10^{-1} 添加において対照に比し生菌数はI型で6倍、II型で9倍、III型で11倍以上となつた。(第2表、第4図参照)

溶血性連鎖状球菌に関しては第3表、第4図に示すごとく青山B株培養ろ液の発育促進作用は認められず、かえつて抑制作用のあるような感をいだかしめる結果が得られた。

第 III 実験

抗酸性菌培養ろ液の嫌気性菌の発育に及ぼす影響

実験材料ならびに実験方法

1) 実験材料

i) 培養ろ液

第I実験におけるヒト型結核菌(青山B株)のもののみを用いた。

ii) 供試菌

破傷風菌(No. 28)

ヒストリチクス菌(H 22株)

ウエルシ菌(N 5株)

(以上金沢大学医学部微生物学教室保存株)

iii) 使用培地

アスコルビン酸ブドー糖ブイヨン³⁾に青山B株培養ろ液を第I実験におけるごとく添加しpH 7.2として使用に供した。

2) 実験方法

供試菌をアスコルビン酸ブドー糖ブイヨンに24時間、2回継代培養せるものを前記試験培地に一滴あて接種し、15時間、37°Cにて培養後生菌数および混濁度を測定した。

i) 生菌数の測定

おおむね第I実験に準じたが、培地はアスコルビン酸ブドー糖血液寒天⁴⁾を使用し、金大式嫌気性瓶に納め水銀柱1.5mmまで空気を排除し37°C、24時間培養後発生集落数を算定した。

ii) 混濁度の測定

100°C、1時間殺菌した外、第I実験に準じた。

実験成績

第4表、第4図に示すごとく、青山B株培養

ろ液添加の影響は全く認めなかつた。

第 IV 実験

抗酸性菌培養ろ液の真菌の発育に及ぼす影響

実験材料ならびに実験方法

1) 実験材料

i) 培養ろ液

第I実験におけるヒト型結核菌(青山B株)のもののみ用いた。

ii) 供試菌

Candida parakrusei

Candida albicans

Candida pseudotropicalis

(以上金沢市伝染病院保存株)

iii) 使用培地

サブロー・ブドー糖ブイヨンに青山B株培養ろ液を第I実験におけるごとく添加し, pH 6.0として使用した。

2) 実験方法

供試菌をサブロー・ブドー糖ブイヨンに24時間, 2回継代培養し, その菌液一滴を前記使用培地に滴下, 24時間, 37°Cにて培養後生菌数および混濁度を測定

した。

i) 生菌数の測定

サブロー・ブドー糖寒天を使用し, 第I実験に準じ行つた。

ii) 混濁度の測定

100°C, 30分間加熱殺菌した後, 第I実験に準じて測定した。

実験成績

青山B株培養ろ液は *C. parakrusei*, *C. albicans* および *C. pseudotropicalis* のいずれに対しても発育促進的に作用し, 10^{-1} 添加において

対照に比し生菌数は2.5倍であつた。(第5表, 第4図参照)

考案

Borrte & de Colton¹⁾ は細菌の発育に関する研究において結核菌は物質代謝の結果, 結核菌のみならず他種の細菌の発育に対する促進物質を産生すると述べ, 教室の女川²⁾もツベルクリンが結核菌の発育を促進することを明らかにした。

そこで私は本実験において大腸菌, 腸チフス菌, パラチフスA菌, パラチフスB菌, 赤痢菌(志賀株, 駒込B_{III}株, 大野株, 大原株, 居石株), 肺炎双球菌, ブドー球菌および真菌の発育に対する各種抗酸菌培養ろ液の影響を観察したところ, ヒト型結核菌(H₂株, 青山B株), BOK, トリ型結核菌(竹尾株)およびチモーテ菌より得たソートン培養ろ液はいずれも程度の差こそあれ, これら細菌の発育を促進するという成績が得られた。このことは本間³⁾の結核菌培養ろ液が肺炎双球菌の発育を, 桧垣⁴⁾のツベルクリンが *C. albicans* の発育を促進するというそれぞれの報告と全く軌を一にしている。

考察

しかし一方溶血性連鎖状球菌および嫌気性菌では青山B株培養ろ液添加により発育促進が認められず, 前者ではかえつて抑制されるような傾向さえ認められた。

さて結核菌はその発育過程において各種の物質を合成することが知られているが, いかなる物質が細菌に対し発育促進的に作用するかはいまだ明らかでない。女川によるとツベルクリン中の結核菌に対する発育促進物質とツ活性因子はともにプロテイン分画に関係があるとしている。結核菌の発育に対する促進物質が, その他の細菌の発育に対する発育促進物質と同一であるかどうかは異論のあるところであり, かつ発育促進物質といわれるものが菌の発育に対していかなる役割りを果しているのかにも多くの疑点が残されているが, とにかく抗酸菌培養ろ液が腸内細菌の発育には促進的に作用し嫌気性菌のそれには影響を及ぼさなかつた事実ははなはだ興味のあるところと考える次第である。

結論

各種抗酸菌培養ろ液の結核菌以外の細菌の発育に及ぼす影響を観察し次の結果を得た。

1) ヒト型結核菌H₂株, 同青山B株, BOK, トリ型結核菌竹尾株およびチモーテ菌の培養ろ

論

液はいずれも一般に腸内細菌(大腸菌, 腸チフス菌, パラチフスA菌, パラチフスB菌, 赤痢菌志賀株, 同駒込B_{III}株, 同大原株, 同大野株, 同居石株)の発育を促進せしめる。

2) ヒト型結核菌青山B株の培養ろ液はブド一球菌および肺炎双球菌の発育を著明に促進するが、溶血性連鎖状球菌の発育を軽度に抑制する。

3) ヒト型結核菌青山B株の培養ろ液は嫌気

性菌（破傷風菌、ヒストリチクス菌およびウエルシ菌）の発育に対し影響を及ぼさなかつた。

4) ヒト型結核菌青山B株の培養ろ液は真菌（*C. parakrusei*, *C. albicans*, および *C. pseudotropicalis*）の発育に対して促進的に作用した。

文

- 1) Borrel, Boez and de Conlon : Compt. rend. Soc. Biol., 89, 1923.
- 2) 女川 徹 : 金大結研年報, 14(上), 75, 1956.
- 3) 井上来太 : 十全会雑誌, 44(上), 967, 1939.
- 4) 井上来太 : 十全会雑誌, 44(上), 1449, 19-39.
- 5) 本間道夫 : 日本医事新報, 1391, 27, 1950.
- 6) 檜垣正昭・斎藤義・立野靖光・小泉玄夫 : 広島医学 (原著号), 4 (6), 547,

献

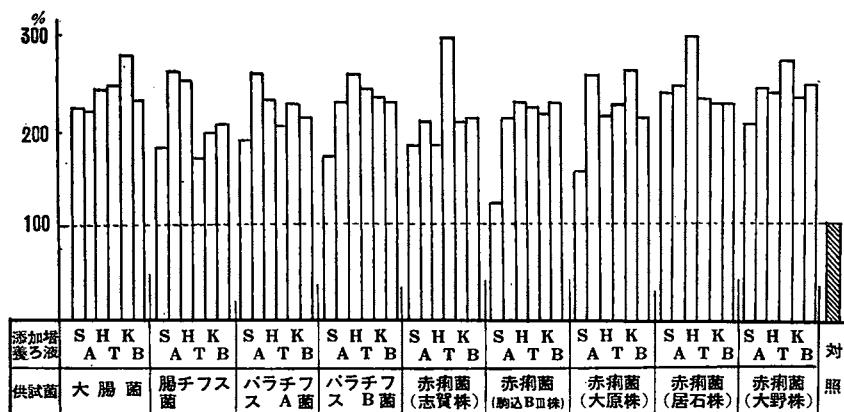
- 1956.
- 7) 内海誓一郎・反木孝子 : 博愛医学, 6, 157, 1953.
- 8) 斎藤正行 : 光電比色計による臨床化学検査.
- 9) 高橋吉定・相沢 寛 : 真菌 (糸状菌) 検査法抗生物質検査法.
- 10) 戸田忠雄 : 結核菌と BCG.
- 11) 戸田忠雄 : 戸田新細菌学.
- 12) 細菌学実習提要.

第1表 各抗酸菌培養ろ液の腸内細菌の発育に及ぼす影響

供試菌	添加培養ろ液	培地					ブイヨン					ペプトン水				
		添加濃度	10 ⁻¹	10 ⁻²	10 ⁻³	10 ⁻⁴	10 ⁻⁵	無添加 (対照)	10 ⁻¹	10 ⁻²	10 ⁻³	10 ⁻⁴	10 ⁻⁵	無添加 (対照)		
大陽菌	青山B	生菌数	120	98	70	73	65	54	224	168	174	134	104	96		
		混濁度	55.8	58.7	60.0	64.5	64.0	67.8	49.2	53.5	54.8	60.5	64.9	66.7		
	H ₂	生菌数	106	101	88	56	47	44	204	194	170	134	101	80		
		混濁度	53.0	57.0	58.5	60.5	63.6	65.8	60.5	63.6	65.2	68.5	69.4	70.3		
	BOK	生菌数	256	195	174	110	124	112	156	121	101	94	54	49		
		混濁度	49.5	54.7	60.4	61.5	63.0	67.5	53.6	61.5	65.5	65.0	63.3	69.7		
腸チフス菌	竹尾	生菌数	208	156	143	114	93	78	214	195	188	170	131	69		
		混濁度	50.5	54.5	56.7	61.4	63.5	68.7	54.0	55.6	58.4	63.5	65.0	69.5		
	チモーテ	生菌数	159	144	142	123	96	65	174	156	130	89	94	71		
		混濁度	58.6	64.0	65.5	67.4	68.3	70.0	62.8	64.1	65.9	68.5	72.0	72.1		
	ソートン	生菌数	67	58	38	36	29	30	124	96	93	84	70	74		
	1/10濃縮	混濁度	52.1	54.6	56.0	58.6	66.5	65.3	56.8	59.9	61.1	68.0	68.0	70.5		
パラチフスA菌	青山B	生菌数	254	218	188	154	111	98	164	158	138	140	119	101		
		混濁度	44.4	48.2	56.7	61.5	65.5	70.0	57.9	59.5	63.3	66.6	71.7	73.8		
	H ₂	生菌数	250	196	184	153	121	101	204	194	168	165	132	124		
		混濁度	54.0	58.5	60.5	65.7	67.3	68.4	50.1	55.5	59.7	64.3	67.8	71.6		
	BOK	生菌数	234	205	188	154	131	114	154	160	138	128	114	124		
		混濁度	48.5	51.7	58.5	64.8	66.7	71.4	59.5	63.2	67.4	69.6	73.5	70.1		
パラチフスB菌	竹尾	生菌数	198	173	149	144	124	101	174	193	184	154	123	98		
		混濁度	51.6	54.9	60.6	64.5	64.0	68.4	53.7	57.8	61.0	65.3	67.8	70.8		
	チモーテ	生菌数	208	201	190	154	138	124	184	174	159	144	102	99		
		混濁度	48.0	56.4	59.7	63.5	63.5	70.4	51.5	55.5	60.4	63.1	66.1	68.5		
	ソートン	生菌数	165	155	144	121	96	91	131	124	114	118	90	94		
	1/10濃縮	混濁度	38.9	44.5	42.7	56.0	62.1	72.4	60.6	61.6	64.0	67.5	70.6	77.7		
赤痢菌(志賀株)	青山B	生菌数	383	287	244	246	170	151	249	238	211	187	134	117		
		混濁度	38.6	49.5	54.5	60.0	64.3	66.6	50.5	52.6	58.3	59.7	64.1	64.1		
	H ₂	生菌数	274	244	202	140	127	121	236	190	175	134	138	117		
		混濁度	42.1	46.5	49.6	60.5	68.4	67.5	48.7	54.6	59.7	63.5	63.5	65.0		
	BOK	生菌数	380	321	245	234	201	181	214	187	167	101	97	88		
		混濁度	52.7	58.5	57.5	63.0	65.7	65.1	49.8	55.5	59.3	61.2	64.4	65.8		
パラチフスA菌	竹尾	生菌数	276	190	180	121	124	119	285	290	223	154	144	101		
		混濁度	50.4	52.5	54.7	60.1	62.5	66.7	51.2	54.9	62.0	65.5	66.6	79.1		
	チモーテ	生菌数	174	144	124	96	82	88	224	154	138	146	140	90		
		混濁度	46.5	48.1	59.6	62.5	64.6	61.0	53.4	61.2	64.7	63.9	65.2	64.5		
	ソートン	生菌数	207	180	146	144	185	112	243	193	183	164	150	134		
	1/10濃縮	混濁度	42.1	50.0	52.0	56.4	58.6	68.3	50.1	54.5	55.5	61.2	63.8	62.4		
パラチフスB菌	青山B	生菌数	213	191	153	118	129	95	274	211	173	151	130	121		
		混濁度	41.5	43.5	49.2	54.8	57.5	61.2	43.8	44.5	47.1	54.9	60.1	62.0		
	H ₂	生菌数	259	199	210	150	121	101	194	170	164	130	113	104		
		混濁度	43.5	48.1	49.0	54.5	56.4	60.0	45.5	53.1	57.2	59.0	61.9	65.2		
	BOK	生菌数	256	198	164	132	109	103	279	284	197	140	155	130		
		混濁度	48.8	53.2	56.5	60.1	64.0	65.9	49.9	51.4	58.5	60.8	63.2	65.0		
赤痢菌(志賀株)	竹尾	生菌数	265	194	198	145	124	112	194	165	104	89	74	82		
		混濁度	48.9	49.8	50.3	56.4	58.0	64.9	52.7	55.5	58.8	60.0	61.5	65.0		
	チモーテ	生菌数	192	159	137	104	91	81	241	194	160	155	140	135		
		混濁度	51.5	54.3	56.7	59.2	62.5	64.2	54.2	54.0	59.5	61.1	62.7	68.2		
	ソートン	生菌数	148	125	133	101	84	88	191	184	154	180	127	138		
	1/10濃縮	混濁度	39.5	42.5	42.3	46.8	54.1	64.3	45.2	49.4	54.4	58.1	64.6	66.5		
赤痢菌(志賀株)	青山B	生菌数	201	144	121	105	101	99	194	170	154	130	110	93		
		混濁度	54.1	59.2	61.5	60.9	68.3	68.9	51.4	54.3	57.8	58.1	60.5	63.3		
	H ₂	生菌数	194	184	154	134	115	107	178	145	118	105	99	97		
		混濁度	53.5	55.5	58.8	60.1	61.3	65.7	50.0	54.3	56.7	55.3	58.9	63.4		
	BOK	生菌数	250	196	173	164	130	121	285	230	194	145	136	124		
		混濁度	51.3	54.0	58.6	59.1	61.2	64.1	59.0	60.3	62.8	64.5	67.9	69.2		
赤痢菌(志賀株)	竹尾	生菌数	154	144	94	89	83	76	254	149	164	130	115	105		
		混濁度	50.1	54.5	57.3	61.5	62.7	65.0	51.4	58.9	57.9	61.0	61.6	63.1		
	チモーテ	生菌数	198	130	105	85	67	68	470	430	354	205	167	157		
		混濁度	51.3	54.0	57.4	58.3	61.6	64.8	49.9	53.2	57.6	56.9	59.3	65.7		
	ソートン	生菌数	164	139	124	105	99	91	144	123	114	104	99	94		
	1/10濃縮	混濁度	50.1	51.1	54.3	57.5	60.0	64.7	56.3	57.8	59.4	61.2	62.0	64.0		

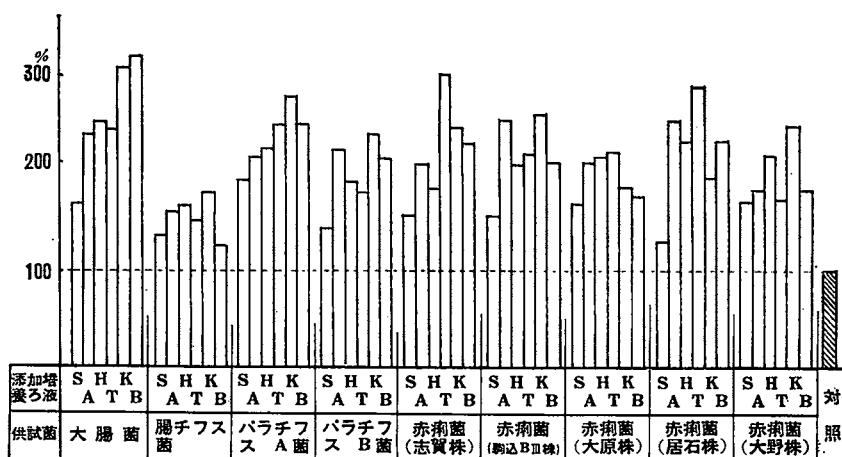
供試菌	添加培養ろ液	培地		ブイヨン					ペプトン水					
				10 ⁻¹	10 ⁻²	10 ⁻³	10 ⁻⁴	10 ⁻⁵	無添加 (対照)	10 ⁻¹	10 ⁻²	10 ⁻³	10 ⁻⁴	10 ⁻⁵
		生菌数	混濁度											
赤痢菌(駒込BⅢ株)	青山B	生菌数	305	284	215	173	156	145	365	245	215	190	155	145
		混濁度	46.5	51.1	53.4	58.2	56.7	64.0	50.6	54.9	56.8	60.5	60.6	64.1
	H ₂	生菌数	234	205	165	138	117	105	259	243	195	138	126	125
		混濁度	45.5	51.5	54.4	59.2	61.7	63.0	49.5	53.3	54.0	57.1	59.8	62.4
	BOK	生菌数	268	214	195	154	123	119	224	154	135	141	125	112
		混濁度	49.5	53.6	55.5	57.3	59.5	62.9	51.0	53.5	57.3	59.6	60.0	64.0
	竹尾	生菌数	238	193	174	154	131	111	375	334	256	174	159	145
		混濁度	51.4	54.2	57.1	61.0	61.1	64.2	50.1	54.3	57.8	58.4	60.4	64.3
赤痢菌(大野株)	チモーテ	生菌数	283	194	174	127	108	130	194	154	114	123	94	88
		混濁度	51.5	54.2	58.0	61.3	62.8	63.4	51.1	53.2	57.0	59.4	61.5	65.3
	ソートン	生菌数	96	93	85	88	77	79	170	230	174	150	132	112
	$\frac{1}{10}$ 濃縮	生菌数	50.0	52.1	58.5	62.0	65.3	62.9	54.5	56.0	58.4	60.6	62.8	64.7
	青山B	生菌数	238	190	153	149	121	100	189	168	143	147	131	139
		混濁度	52.1	54.4	57.6	59.5	61.7	63.5	54.5	58.0	59.3	60.5	61.5	68.3
	H ₂	生菌数	334	219	193	183	155	145	345	303	194	170	171	158
		混濁度	49.3	54.3	57.8	58.3	60.0	63.6	49.5	53.1	54.7	56.6	57.3	59.2
赤痢菌(居石株)	BOK	生菌数	184	146	124	104	89	74	195	184	154	149	133	105
		混濁度	55.6	57.1	59.4	60.5	61.3	62.3	55.5	54.3	59.2	60.3	61.8	63.7
	竹尾	生菌数	254	234	174	154	130	111	245	190	165	136	112	99
		混濁度	53.6	54.5	59.4	60.0	60.6	62.1	53.7	54.3	57.8	59.3	60.3	64.8
	チモーテ	生菌数	294	236	193	134	98	79	194	130	154	143	119	113
		混濁度	53.2	57.4	58.7	59.7	61.1	62.0	52.4	55.1	57.8	59.4	60.7	63.5
	ソートン	生菌数	305	118	110	102	103	102	203	125	119	122	110	119
	$\frac{1}{10}$ 濃縮	生菌数	54.7	57.4	58.5	59.7	59.4	61.9	57.2	61.8	68.1	67.5	69.3	70.2
赤痢菌(大原株)	青山B	生菌数	304	254	194	153	135	125	285	276	154	138	120	114
		混濁度	49.4	54.4	55.6	60.0	60.5	61.5	49.0	49.6	54.8	59.7	60.1	64.5
	H ₂	生菌数	364	306	259	190	150	124	224	196	155	130	121	96
		混濁度	54.2	65.5	59.6	63.7	62.1	64.1	54.1	56.5	58.2	60.0	60.8	62.9
	BOK	生菌数	234	193	185	150	139	105	153	93	88	74	64	65
		混濁度	58.6	59.1	60.5	63.3	64.1	67.5	59.2	56.5	58.9	60.0	62.2	62.9
	竹尾	生菌数	109	74	53	48	51	49	259	236	194	173	145	132
		混濁度	60.4	61.3	64.1	63.9	63.8	65.1	51.5	54.7	58.0	61.5	63.0	64.3
赤痢菌(居石株)	チモーテ	生菌数	293	214	154	141	132	129	594	394	346	304	253	208
		混濁度	53.4	58.1	59.3	61.7	62.9	64.7	50.5	52.1	52.6	54.3	56.8	58.1
	ソートン	生菌数	194	150	113	96	89	81	179	156	138	146	130	139
	$\frac{1}{10}$ 濃縮	生菌数	55.8	57.1	59.3	60.0	62.2	63.0	54.8	56.3	58.4	58.7	60.1	62.5
	青山B	生菌数	234	195	150	113	99	90	324	254	190	174	160	154
		混濁度	50.1	52.5	55.3	57.4	61.6	65.0	52.3	58.4	60.0	61.7	60.4	61.2
	H ₂	生菌数	174	134	114	105	85	72	305	253	194	173	154	140
		混濁度	51.5	54.5	59.0	61.3	60.9	62.5	51.3	54.7	53.9	56.4	58.1	60.5
赤痢菌(大原株)	BOK	生菌数	251	201	177	138	136	120	198	130	123	119	113	114
		混濁度	51.5	53.2	55.5	59.4	60.3	62.0	53.1	57.3	58.0	60.1	60.8	62.7
	竹尾	生菌数	203	194	144	185	121	104	194	180	124	114	107	103
		混濁度	49.5	55.0	56.8	57.1	57.8	60.3	54.7	56.2	58.9	60.0	60.1	64.5
	チモーテ	生菌数	295	213	185	153	144	130	223	205	154	131	117	101
		混濁度	50.5	54.3	56.7	58.6	58.9	62.0	54.1	56.3	59.3	60.1	61.4	63.0
	ソートン	生菌数	159	135	125	119	100	104	108	89	74	69	63	65
	$\frac{1}{10}$ 濃縮	生菌数	53.0	55.1	59.3	61.2	60.9	64.1	58.2	59.3	63.2	65.7	94.9	65.0

第1図 各種抗酸菌培養ろ液 10^{-1} 添加ブイヨン培地における各種細菌発育の比較



S : 濃縮ソートン培地 A : ヒト型結核菌青山B株 H : ヒト型結核菌H₂株
T : チモーテ菌 K : トリ型結核菌竹尾株 B : BOK

第2図 各種抗酸菌培養ろ液 10^{-1} 添加ペプトン水における各種細菌発育の比較



S : 濃縮ソートン培地 A : ヒト型結核菌青山B株 H : ヒト型結核菌H₂株
T : チモーテ菌 K : トリ型結核菌竹尾株 B : BOK

第2表 各抗酸性菌培養ろ液のブドー球菌の発育に及ぼす影響

培地 添加 培養ろ液	添加濃度	ブイヨン						ペプトン水					
		10 ⁻¹	10 ⁻²	10 ⁻³	10 ⁻⁴	10 ⁻⁵	無添加 (対照)	10 ⁻¹	10 ⁻²	10 ⁻³	10 ⁻⁴	10 ⁻⁵	無添加 (対照)
青山B	生菌数 混濁度	759 30.5	670 36.1	453 39.5	364 45.4	233 47.8	103 54.0	430 38.1	442 38.8	283 44.4	116 45.6	134 49.5	102 56.9
H ₂	生菌数 混濁度	735 34.8	264 36.5	198 39.7	204 43.6	140 46.1	124 52.5	533 44.5	504 49.1	401 51.1	265 52.8	140 57.0	156 58.4
BOK	生菌数 混濁度	769 41.5	538 42.1	607 48.3	303 57.4	205 56.4	142 59.0	759 41.6	688 48.2	545 51.8	384 58.4	206 57.5	181 59.1
竹尾	生菌数 混濁度	890 37.0	651 45.5	595 47.5	244 54.3	231 54.7	146 55.5	293 39.4	192 44.1	125 49.2	103 54.8	91 55.1	80 57.5
チモーテ	生菌数 混濁度	936 30.1	454 33.5	374 36.7	194 43.5	180 49.2	167 49.4	314 41.4	235 47.3	194 51.5	133 59.0	117 60.0	103 60.3
ソートン $\frac{1}{10}$ 濃縮	生菌数 混濁度	264 33.3	194 28.5	174 35.5	150 42.6	131 57.2	96 59.5	294 41.7	301 43.2	196 49.5	147 54.6	122 54.8	114 58.5

第3表 ヒト型結核菌青山B株培養ろ液の肺炎双球菌、溶血性連鎖状球菌の発育に及ぼす影響

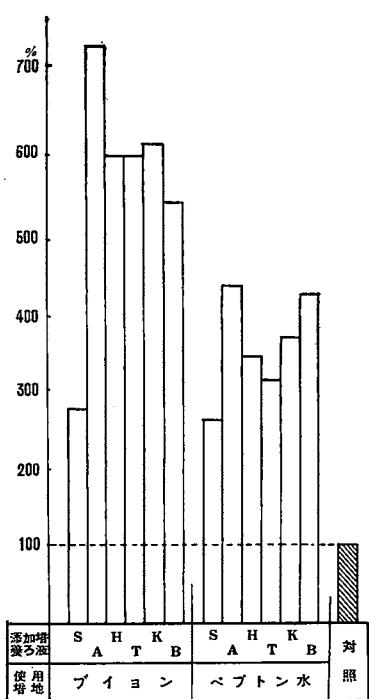
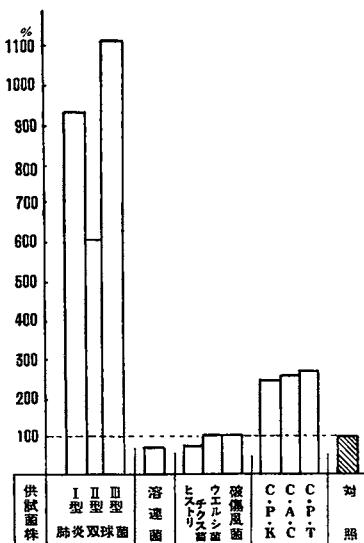
菌種 添加濃度	10 ⁻¹	10 ⁻²	10 ⁻³	10 ⁻⁴	10 ⁻⁵	$\frac{1}{10}$ 血清 加ブイヨン	無添加 (対照)	
							10 ⁻¹	10 ⁻²
肺炎双球菌 I型	生菌数 混濁度	344 68.4	283 70.1	296 73.5	174 79.3	24 84.5	483 70.0	37 82.7
肺炎双球菌 II型	生菌数 混濁度	298 75.1	276 78.3	148 79.8	147 87.3	143 88.2	256 69.1	49 87.2
肺炎双球菌 III型	生菌数 混濁度	1200 63.1	981 67.5	385 70.3	235 73.1	256 79.2	1300 64.5	108 80.1
溶血性連鎖 状球菌	生菌数 混濁度	134 74.2	162 73.9	150 74.5	178 75.1	177 78.5	1400 68.2	187 76.1

第4表 ヒト型結核菌青山B株培養ろ液の嫌気性菌の発育に及ぼす影響

菌種 添加濃度	10 ⁻¹	10 ⁻²	10 ⁻³	10 ⁻⁴	10 ⁻⁵	無添加 (対照)	
						10 ⁻¹	10 ⁻²
ヒストリクス菌	生菌数 混濁度	34 83.0	45 83.1	36 82.5	47 84.6	38 80.5	45 84.0
ウエルシ菌	生菌数 混濁度	27 9.2	24 8.6	25 6.1	25 6.5	33 6.4	26 7.2
破傷風菌	生菌数 混濁度	52 83.3	43 82.6	43 84.0	31 82.5	48 84.3	50 82.0

第5表 ヒト型結核菌青山B株培養ろ液の真菌の発育に及ぼす影響

菌 株	添加濃度	10^{-1}	10^{-2}	10^{-3}	10^{-4}	10^{-5}	無添加 (対照)
C.P.K.	生菌数 混濁度	83 63.1	61 69.5	78 65.8	62 72.4	76 69.7	34 81.0
C.A.C.	生菌数 混濁度	129 35.0	156 31.8	46 41.7	43 55.1	44 58.3	50 57.9
C.P.T.	生菌数 混濁度	129 46.5	160 43.8	61 64.5	68 65.8	70 68.7	49 67.2

C.P.K. : *Candida parakrusei*C.A.C. : *Candida albicans*C.P.T. : *Candida pseudotropicalis*第3図 各種抗酸菌培養ろ液 10^{-1} 添加におけるブドー球菌発育の比較第4図 ヒト型結核菌青山B株培養ろ液 10^{-1} 添加における肺炎双球菌, 溶血性連鎖状球菌, 嫌気性菌, 真菌発育の比較

S : 濃縮ソートン培地 A : ヒト型結核菌青山B株 H : ヒト型結核菌H₂株
 T : チモーテ菌 K : トリ型結核菌竹尾株 B : BOK